

## 発行にあたって

## Greeting

## 病院長のご挨拶

これからの医療は、機能・役割の分担が重要で、地域の医療資源をいかに有効活用するかがますます重要となって来ています。山形大学医学部附属病院では、地域の医療の最後の砦としての役割を果たすべく、日進月歩の医療技術に追いつき追い越す努力を重ねていますが、一方で、私どもの持つ最新の医療技術は、今まで十分に地域住民や先生方に広報されてきたとは言えないと思います。

この広報誌は、広報担当副院長である、高木理彰整形外科長の発案によ

り、山形大学医学部附属病院の最新の取り組みを地域の先生方に知って頂く目的で発行されます。今後、病院の得意とする医療分野の紹介や、新規に導入された機器、医療技術の概要を、定期的に地域の先生方にお送りする予定としております。これを機会に当院の医療を知っていただき、地域のリソースとして有効に活用して頂ければ幸いです。これからも、医療レベルの向上に病院を挙げて尽力して参りますので、ご支援の程よろしく願いいたします。



山形大学医学部附属病院長  
ねもと けんじ  
根本 建二

## 認知症に係る取組

## Topics

## 認知症総合外来と山形大学認知症講座

認知症は、認知機能障害により生活に支障をきたすようになった状態です。山形県には現在約6万人の認知症者がおり、今後も増加が予測されています。平成29年3月には改正道路交通法施行により、免許更新時の認知機能検査で「認知症の恐れ」とされた方の



大講義室が満員となった山形大学認知症講座

医療機関受診が義務づけられ、ますます確かな認知症診断が求められるようになります。

認知症の原因は様々な脳の病気です。早期に原因となる病気を診断し、治療/介入することが重要です。本院では、認知症の正しい知識を医療者に伝えること、認知症の的確な原因診断をすることを目標に二つの取り組みを行っています。まず、昨年12月に認知症総合外来を精神科・高次脳機能科・第三内科合同で開設し、早期診断の体制を整えました。さらに、今年度は、山

形県と共催で、年間を通して認知症について学べる「山形大学認知症講座」を開講し、5月から8月までに延べ1400名余の医療関係者にご参加いただいています。このような取り組みを通して、山形県全体の認知症対応力の向上を目指し、かかりつけ医を初めとする地域の医療関係者と連携しながら、認知症者がよりよく生きられる地域となるよう貢献できればと考えています。

認知症総合外来の予約は本院地域医療連携センター(023-628-5160)で、山形大学認知症講座申込は山形県の健康長寿推進課(023-630-2158)で受け付けておりますので、是非ご利用ください。

## 消化器疾患すなわち食道・胃・小腸・大腸・肝・胆・膵疾患および乳腺・甲状腺疾患の診療を行っています。

第一外科

### 1. 「安全確実な手術と厳密な周術期管理」

日本肝胆膵外科学会高度技能指導医のもと、リスクの高い膵頭十二指腸切除術を280例(+膵体尾部切除140例:膵切除計420例)、肝切除を360例施行し手術死亡ゼロを継続中です。医局員全員で全ての外科治療ならびに周術期管理の方針を毎朝のカンファレンスで検討しています。増加する高齢者に対しても看護師をはじめ多職種と連携しながらその周術期管理に力を入れています。

### 2. 「体に優しい手術、機能温存手術」

日本内視鏡外科学会技術認定医を有し、胃癌に対する完全腹腔鏡下B-1法再建術や大腸癌、食道癌、膵疾患などにさまざまな鏡視下手術を行っています。年々その数が増加し、大腸癌

ではその約80%が腹腔鏡下手術です。乳癌センチネルリンパ節生検による機能温存手術などにも積極的に取り組んでいます。

### 3. 「高度進行癌に対する集学的治療」

肝門部胆管癌に対する拡大肝葉切除術、切除不能進行膵癌、胃癌や大腸癌肝転移に対するコンバージョン手術(化学療法後に切除可能となった場合の外科切除)、食道癌化学放射線治療後のサルベージ手術などを行っています。

第一外科はこれからも安全で確実な手術を第一に成績の向上に努めてまいります。



## 最先端血管内治療を可能にするハイブリッド手術室の本格稼働から1年

第二外科

「ハイブリッド手術室」とは、「放射線科に設置されている透視撮影機能を有するアンジオ室」と、「外科的な手技が円滑に行える清潔環境下の手術室」のそれぞれのメリットをひとつに融合させた先進的治療施設です。平成27年9月に、山形大学医学部附属病院の手術室に新設され、従来の手術室や血管撮影室単独では対応しきれなかった胸部や腹部の大動脈疾患や脳血管疾患に対する血管内治療を先進的に行うことが出来るようになりました。

透視撮影装置では世界で唯一の8軸関節の回転アームが自由自在に動き、解像度の高い立体的な3次元画像を作り出し、脳血管治療や大動脈瘤ステントグラフトなどの先

進的な手術を清潔環境で迅速かつ安全に実施することが可能となりました。本格稼働から1年が経過しましたが、既に100例以上の患者さんの治療にハイブリッド手術室を活用され、開胸や開腹が不要で低侵襲、短い手術時間で早い回復のため沢山の患者さんがこの治療を希望して来院しています。



### Schedule

#### 年内の 学外向け行事

### 山形大学医学部 がんセンター講演会

悪性リンパ腫の患者さんやご家族に適切な医療情報や交流の場を提供するとともに、患者さんやご家族の医療環境を向上するための調査研究や政策提言などを行っているグループ・ネクサス・ジャパンの天野慎介氏をお招きして、下記のとおり講演会を開催します。

多くのみなさまのご参加をお待ちしております

日時:平成28年11月7日(月)17:30~18:30

場所:山形大学医学部大講義室

講師:一般社団法人グループ・ネクサス・ジャパン

理事長 天野 慎介氏

◎問い合わせ/山形大学医学部医療支援課

高度先進医療担当

TEL 023-628-5022

### Information

## PET-CT 有効活用のお願い

山形大学医学部附属病院では平成23年9月よりPET-CT装置が稼働しています。フルオロデオキシグルコース(FDG)を用いたFDG-PETを主体に月200件前後の検査を行っており、がんの診療になくてはならない検査です。しかしながら、導入から5年を経過した現在、検査件数が思うようには増加しておらず、附属病院の経営を圧迫しています。

そこで臨床の第一線で活躍されている先生方へお願いです。がんの診断がつかまじら、治療方針を決めるためには是非外来での

PET-CTをご考慮下さい。早期胃癌を除くすべてのがんにPET-CTの適応があります。がんの診断がついて他の病院で紹介する場合には、紹介前にPET-CTを山形大学医学部附属病院にご用命下さい。

院外からのご予約は、直接山形大学医学部附属病院放射線部PET受付(TEL:023-628-5586)までお願いいたします。適応に関する相談など、ご不明な点に関しても放射線部PET受付にお問い合わせ下さい。



URL <http://www1.id.yamagata-u.ac.jp/MIDINFO/t-medical/pet/>

### 編集後記

このたび、山形大学医学部附属病院の最新の取り組みを地域の先生方へ知って頂くために、新たに四半期ごとに広報誌を作成することになりました。みなさまのご意見、ご感想をお待ちしております。なお、次回は、平成29年1月にお届けしますので、今後ともよろしくお願い申し上げます。